

# クロルマジノン酢酸エステルを用いたProgestin-Primed Ovarian Stimulationにおける凍結融解胚移植時期の検討

## 【目的】

採卵をする前に行う卵巣刺激の中で、黄体ホルモン製剤を併用した方法をProgestin-Primed Ovarian Stimulation (PPOS) 法といいます。併用する黄体ホルモン製剤は数種類ありますが、今回はルトラル錠を併用したPPOS法で採卵したときの凍結胚盤胞を胚移植する時期について検討しました。

## 【対象および方法】

2022年5月から2023年10月までに保険にて当院初回採卵、初回胚移植を行ったPPOS 56周期とPPOS以外の卵巣刺激38周期を対象としました。

採卵後初回の月経周期に胚移植を行った初回群と、採卵後2回目の月経周期に胚移植を行った2回目群に分け、臨床成績を比較しました。

移植胚はすべてGardner分類3BC以上の胚盤胞としました。

## 【結果】

PPOS初回群と2回目群の比較では症例背景において採卵時年齢、AMH値、FSH基礎値の項目で差がありました。

妊娠率はそれぞれ36.8%(7/19)、45.9%(17/37)と差はないものの初回群で低下傾向でした。

PPOS以外の卵巣刺激における比較では症例背景において採卵時年齢、AMH値、FSH基礎値の項目で差がありました。

妊娠率はそれぞれ66.7%(10/15)、43.5%(10/23)と差はありませんでした。

初回月経周期胚移植における卵巣刺激別の比較では、症例背景では採卵時年齢に差がありました。

妊娠率はPPOS群36.8%(7/19)、その他卵巣刺激群66.7%(10/15)と差はないものの、PPOS群で低下傾向でした。

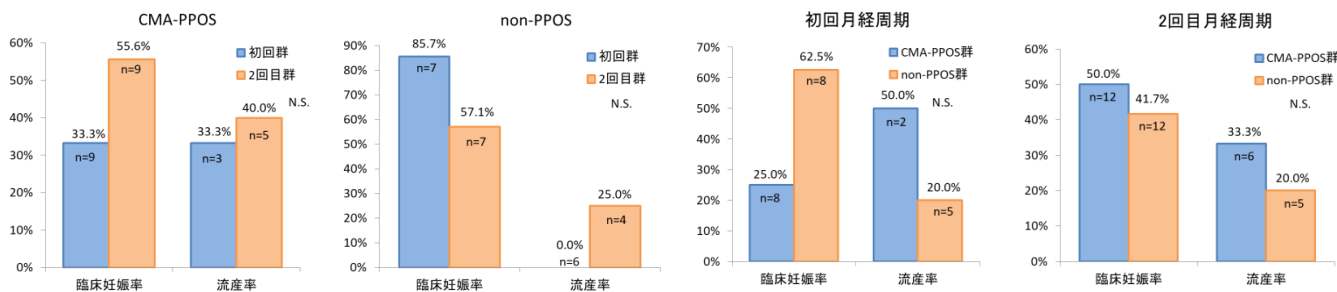
2回目の月経周期胚移植における卵巣刺激別の比較では、症例背景では採卵時年齢とAMH値の項目で差がありました。

妊娠率はそれぞれ45.9%(17/37)、43.5%(10/23)と差はありませんでした。

それぞれの症例背景を揃え比較した結果、PPOS初回群と2回目群の妊娠率は33.3%(3/9)、55.6%(5/9)と差はないものの初回群で低下傾向でした。

初回月経周期胚移植における卵巣刺激別の妊娠率はPPOS群25.0%(2/8)、その他卵巣刺激群62.5%(5/8)と差はないもののPPOS群で低下傾向でした。

## 症例背景を揃えた結果



## 【結論】

ルトラルを併用したPPOS法で採卵したときの凍結胚盤胞は、採卵後2回目の月経周期に胚移植を行うことで臨床成績に影響しないことが示唆されました。

しかし、今回の検討は厳密に言えば症例の背景を揃えられていなかったため、再検討する余地はあるかと思っています。

また、ほかの黄体ホルモン製剤による検討も行っていきたいと考えています。

今後も診療を通して新しい知見を発表できるように、また得られた知見を患者様に還元できるように日々精進してまいります。